

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
項目番号61 ○日常的な外出支援
項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
項目番号63 ○電話や手紙の支援
項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 _____ すずらん日向 _____

(ユニット名) _____ 日向 I _____

記入者(管理者)
氏名 _____ 橋本好博 _____

評価完了日 _____ 19年 4月 25 日 _____

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の中で理念を作成、掲示しその人らしい暮らしを実現するよう努めている		理念の意味を個々が理解し、チームとして提供できるようにしたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念はもちろんだが、ユニット毎の理念を職員同士がBS法などを用いて作成し、実現に向けて取り組んでいる		事務所に掲示し、理念の確認をおこなう。又、ビデオを撮影し、日常のケアを理念に照らし合わせて検証していきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会を作り、家族との意見交換や面会時に話をする。又、地域とは運営推進会議を利用し、認知症についての理解を深めてもらっている	○	家族や地域の人に行事に参加して頂いたり、地区の行事に出て行くことによって、認知症の事、グループホームの事を理解してもらえよう活動していく
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開所して、3年目を向かえ、地域の方との気軽に挨拶や会話が出来ようになってきた。又、畑作りなどの相談をする事が出来るが、日常的な付き合いまでには至っていない。		地域の方とうちとけるように、お互いの行事に参加したりして交流を深めていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加できるように情報を町内会長さんや近所の方々から頂き、参加している。又、夏祭り等事業所でおこなう行事なども案内を送っている。		広報や町内会から頂いた情報をもとに、イベントの協力など交流を図っていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を利用し、西川地区の状況など把握しているが、認知症についての啓蒙活動など具体的な行動が地域の中ではできていない	○	地区単位で認知症についての勉強会を開催し、認知症についての理解や予防、早期発見に繋がられるきっかけ作りをしていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、各ユニットのリーダーが中心となり、ユニット毎の自己評価を実施して、自分達のケアのあり方を振り返っている		新人職員などに対して、自己評価・外部評価の意義について伝達していく
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の項目を報告し、疑問、質問、意見などを聞きながら、サービスの向上に努めているが、限られた時間の中なので詳しく項目の説明が出来ない		外部評価を受けて、ケアについてもう一度振り返ると共に、より良いサービスができるように、話し合いをしていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の事務局を中心に、認知症についての講演会など独自に実施している。又、色々な意見交換もおこなっている		地域での認知症ネットワークを立ち上げる（この業ネット）
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が、認知症介護指導者養成研修で学んできた事を職員に提示はしているが、勉強会や研修会は開催していない	○	地域権利擁護や成年後見制度について、研修会や内部研修などで学ぶ機会を設けていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、認知症介護指導者養成研修で学んできた情報を伝達はしているが、細かい部分の所までの説明はまだ不十分かもしれない	○	市・県などでおこなわれる研修会に積極的に参加し、職員全員が自分の言葉で説明できるようにし、虐待など起きないように注意をしていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の説明や理念など説明し、申込・契約をしている。又、契約終了する際は、本人の事を最優先し、家族と相談しながら決めている		今後も丁寧な解りやすい説明をしていきたい
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員と家族がコミュニケーションをとり、苦情に対しては、管理者を中心に解決するように心がけている	○	まだまだ、不十分な事や気付かない点もあるので、家族会の代表幹事などに協力を頂き、家族の意見などを出しやすい環境にしていきたい
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1ヶ月日記と出納帳の原本を送付し、本人の状態を連絡している。又、不定期(2ヶ月~3ヶ月に1回)ではあるが家族向け新聞に生活の様子を伝えている	○	定期的(2ヶ月)に新聞の発行をしていきたい
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部への苦情処理対策はもうけていないが、法人の理事長へ連絡する体制は整えている		苦情や意見が言いやすい雰囲気と家族会などを定期的に設けて交流を図っていきたい
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の中や会議などで職員が実施したい事など、要望や意見などを聞き、生活している人たちが暮らしやすくなるようしている		定期的な面接を実施し、職員の意見を聞く機会を設ける
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出等前もって決まっている事に対しては、勤務表など調整し対応している。又、急な予定などに対しては極力対応できるように相談調整している		本人の思いを実現する為には職員の勤務調整をこれからもしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職、異動などの時は、新しい職員と入居者がなじみの関係を築くために職員同士がフォローしておこなっている。管理者の変更はない		異動はケアの質を上げていくうえでも必要な事と考えているので、入居者への影響を最小限に食い止め不安や混乱がない様にしていきたい
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会等の研修を中心にその人の段階にあった研修へ参加している。又、内部研修も定期的に行い自分達に必要な研修会を開催しているが、スーパービジョンのような形まではまだおこなっていない	○	研修計画を個人の成長をのせていきたい又、自分が参加したい研修に参加できるようにして行きたい
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の研修などで情報交換をおこなっている。		事業の枠を超えた認知症地域ネットワークを設立して、地域で認知症の方が住みやすい場所を作っていきたい。又、特養との交換研修を実施していきたい
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休みの確保は確実におこなっている。記録の時間の確保など工夫はしているが、勤務時間通りにはいかず、負担はかけており具体的な対策は取れていない		書類等の整理を行い、時間通りに極力上がれるようにしていきたい。又、小さい事でも話し合える環境を作っていきたい
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	成長できる環境づくりを心がけている。資格取得など常に目標を設定しておこなっている。経験3年以上の職員に対しては、認知症ケア専門士の資格取得への援助もしている		個々の目標設定をしっかりと設定し、楽しく向上心を持ってできる様にしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		理念を念頭に、その人の気持ちを一番に考え、受容していけるようにしていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の人が協力できる事など家族会等で相談し、古いタオルなど持って来てもらい、入居者の方に雑巾を縫ってもらったりしており、一緒に考えながら関係作りに勤めている		遠方の家族もいるので、負担とならないような形で協力できる体制を作っていきたい。又、年間の計画なども早めに配れるように準備する
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が面会に来たり、家族と入居者が外出したり今までの関係を保てるようにしている。又、本人の思いを伝えたり、ホームなどの行事に多数参加してもらっている	○	家族のとのつながりを大切にしていきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が行きたい場所など、会話の中から聞き出し、できる限り実現している。又、なじみの人が面会に来てもらえるように呼びかけている		継続した支援をしていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の方同士が相談や話ができるように、見守りをしているが、時々職員が誘導的になって、入居者の方達の間に入ってしまう事がある。又、入居者の方が孤立してしまう場面もあるので、関係が作れるように努めている	○	入居者の方が過ごす空間に、職員の支援の方法を研修会などを通して勉強する機会を設けていく
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	命日の日などには連絡をして会いに行ったりしている		関係の継続性を努めて行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、その人らしい暮らしの視点を見失わないようにアセスメントをしている	新しい情報や色々な視点からの情報を取り入れて実施していきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を記入して頂き、事前把握をするように努めている。又、家族からの情報を取り入れて実施しているが、まだまだ知らない部分が多い	家族、関係者等から少しずつ情報を集めていくようにする
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録、排泄状況など記録をする事によって、その人の変化を見逃さないようにしている	○ 心の変化やその人の出来ることを見つけをしていき、その人の出来る力を見逃さないようにしていく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用し、本人の望む視点で計画を考えている。しかし、家族とは相談するも家族の意見としての記録がのこっていない	○ 現状をしっかりと相談し、今の家族の気持ちをしっかりと踏まえて計画をたてていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院、特変があった場合はすぐに計画を見直しているが、介護計画の用紙でない形で申し送る事がある	○ その人の変化をしっかりと見極めていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は本人の出来る事や今日の気持ちなど記入する欄があり、1日の変化を記入しているが、見直しには活かされていない	○	記録を毎月ごと集計して行き、その人の変化や身体的機能の低下等見つけ、その都度アセスメントに利用していきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援 (小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議から、ボランティアなどの支援もしてもらえるようになった。しかし、教育機関等まだまだグループホームの理解などの啓蒙活動など具体的な行動が地域の中ではできていない	○	消防は、避難訓練等でお世話になっており、今後も協力体制を維持する。又、文化機関などにはこちらから出向いて行き、理解を深めてもらう
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	自己負担が発生するという事で、他のサービスを利用するという事は行っていない		どのような形で、サービスを利用していけばよいか検討して行きたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での関わりのみになっている	○	認知症になっても暮らせる街づくりのために、連携しながら動いて行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の先生方に気軽に相談でき、休日などにも連絡しても助言などいただけるようになっている。又、往診体制も出来ている		今の関係を保ちながら、看取りについても相談、協力していく体制を築いていく
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の先生や心療内科の先生と相談できる。又、認知症介護研究・研修仙台センターの先生とも相談できるようになった		認知症について、今後も相談していける体制を継続していく
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院の時期など担当医師などと協力しながら行っている。医療的部分は任せ、受診や往診などでも大丈夫な時は、早期退院できる体制を整えている。又、面会にも頻繁に行くように職員が心がけ、状態の把握に努めている		必要な治療は、早期に開始し、事業所に対応できる状況になったら、今後も早期に退院し、身体機能の低下、精神的不安定を最小限に食い止めて行きたい
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	退院の時期など担当医師などと協力しながら行っている。受診や往診などでも対応できる時は、早期退院できる体制を整えている。又、面会にも頻繁に行くように職員が心がけ、状態の把握に努めている		終末期に関しては段階に応じて、説明と確認をしていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時に、家族の希望を確認しているが記載事項はない。又、終末期に関して、医療の部分に関しては主治医・協力医院の先生に説明してもらうようにしてもらい、家族と相談しながら最期の場所を確認している		段階に応じて、協力者医療機関・家族等しっかりと話をして行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	協力医療機関と相談し、事業所の出来る事・出来ない事をを家族に伝え、本人・家族の望む生活を実現するようにしている	○	最期までグループホームで生活できるように体制を整えていきたい
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いに気をつけ、常に選択してもらう優しい声掛けになるように工夫している。ケースなど棚にしまったりしているが、鍵はかからない。声掛けになれなれしさが出てきている。		言葉遣いの見直し。個人情報などの記録物に関しては、鍵のある戸棚を準備してしまっていきたい
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりに合わせた話し方(説明)でなるべく選択して頂ける問いかけをしている。又、本人の思いや希望を実現できるように日々努力している	○	自己選択できるように、本人と相談しながらおこなっていきたい
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を実現できるように支援している。しかし、誰かの希望を実現するとその他の生活が限られてしまう		場面毎の入居者のおもいをしっかりと受け止め、職員が連携をとり出来る限り思いや希望が実現できるようにしていきたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	カットは入居者の方の希望にあわせ、理美容院の利用を支援し、カラー・パーマなどは好みの色を自分で選んで頂いたり、長時間美容室に居られない時は職員が染める時もある。又、家族にも協力してもらう		その人のおしゃれを支援できるように継続して関わっていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決めていただいたり、食べたい食べ物がある時などは、希望に応じて対応している。できる力を活かしながら調理や盛り付けをおこなっているが、職員が中心になっておこなってしまうときがある		入居者の出来るところをしっかりと見極めて、できる力を活かし、利用者の方が中心で調理できるように支援していきたい
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは、事務所で吸ってもらっている。又、おやつなどは手作りもするが入居者のなじみの店まで一緒に買いに行き楽しんだりする		本人が食べてみたいという物は常に提供して行きたい
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿取りパットなど必要に応じて使用している。継続して、排泄状況などを確認しながら状態に合わせて使っていく		重度化していく中で、排泄を最後までできる限り自分でできるように、排泄リズムをしっかりと把握していきたい
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる。夕食前、夕食後と希望にあわせて入浴を支援している。又、体調の変化など表情や雰囲気などから推測し、バイタルチェックし入浴の不可を入居者の方と相談しながら決めている。しかし、浴槽が一つしか無いのでどうしても、順番が決まってしまう		本人の希望を沿えるように、できる限り合わせていきたい。又、ゆっくり・楽しく入浴していただく事を心がける
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中運動したりし、夜間眠れる工夫をしている。又、疲れたときやゆっくりしたい時などには、コタツやソファで休んで頂く様にしている		安心できる音楽や匂い等環境的な部分も考えていきたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	過去の経験を把握し、畑や裁縫、料理などその人の役割をいかそうとしているが、まだまだ全員に対して生活歴を踏まえた暮らしを支援しきれていない		その人の過去の生活から、今の暮らしが少しでも豊かになるようにしっかりと考えて行きたい


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している (認知症対応型共同生活介護)	本人がお金を管理している方もいるが、ほとんどは事務所で預かり外出の時は持っていくという形を取っている。	○	一人ひとり自分で使用できるロッカーや預かり場所があればもっと自由に使用できると思われるので、環境を整えていきたい
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している (認知症対応型共同生活介護)	出来る限り、本人の希望に即して外出や買い物などにいけるようにしている。毎朝、神社へ参拝へ行ったりしている。しかし、外出の機会を上手く作れない時がある方も居る		自宅への外出、友人宅への外出等対応できるようにしていきたい
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している (認知症対応型共同生活介護)	事業所として、小旅行などを企画して外出をしている。しかし、個人支援の外出や家族との外出は少ない		個別での外出も希望のときに実現できるようにしていきたい。又、1泊旅行などおこなっていききたい
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている (認知症対応型共同生活介護)	電話は自由に使えるようにしておき、友人や家族に自分で掛けられる人はかけてもらい、希望があったときなどは職員が掛けている。手紙のやり取りは、最近できていない		手紙のやり取りなど出来るようにしていきたい
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している (認知症対応型共同生活介護)	面会の時間などは特に規制はなく、いつでも来れるように話しており、食事も事前に電話をもらえれば一緒に食べる事が出来る。又、面会に来た時など挨拶をしっかりするようにしている		ゆっくり話せるスペースを確保していきたい
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その人らしく、生活できるように取り組んでいる		身体拘束について、職員同士常に勉強して行き、その人の尊厳ある暮らしをしっかりと支援して行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵などかけず自由に自分の家だと思って生活してもらっている		見守りなど常に、その人の気持ちの変化や何処にいるかをしっかりと把握して生活を支援して行きたい
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人を尊重しながら、安全に配慮している。時には、その人のプライバシーの前に安全を守ってしまう事がある(夜間のトイレ時に少しドアを開けてトイレ介助をおこなってしまうときもある)		所在把握をしながら、安全に配慮していきたい。又、安全を守るという事をもう一度職員同士で考えていきたい
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は(ハイターの買い置き等)は手の届かない所においてある。包丁等はすぐ取り出せる場所にあるが、常に職員が配慮している		入居されている人の状態に合わせてしっかりと保管・管理して行きたい
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応など定期的に勉強会をしている。又、避難訓練などおこない対応できるようにしている	○	実際起きては困るが、実際の場面に近い事故を想定して、勉強会の頻度を多くしていき万が一に備えていきたい
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応に関しては、勉強会を実施したり、連絡体制のマニュアルを作り緊急時に対応している。しかし、職員には常に不安がある		生命を守るという心構えを常に忘れないように確認していきたい
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	推進会議等で、防災や災害時などの協力を呼びかけている。又、避難訓練等実施して入居者の安全を心がけている。しかし、夜間想定などは十分な回数ではできていない	○	避難訓練のときは、近所の住民の方にも案内を出し避難訓練を実施している所を見てもらおう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクの高い人に関しては、家族と相談しながら安全を確保しながら、握まりやすいものを近くに置いたり、抑圧の無いような形で支援している		インシデントレポートをしっかりと分析してリスクを最小限に食い止めていきたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	表情の変化などを早急に発見できるよう、変化があったときは、バイタル測定し受診・往診などおこなっている		現状をしっかりと把握していき、協力医院の先生や家族と連携を保っていきたい
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋などをもらってきて職員が必ず確認している。又、医師からの指示があった時はケース記録に記入している		薬の副作用などしっかりと確認して、適切な薬を内服していけるようにこれからも支援していく
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取や体操、散歩など適度な運動をおこなう。又、カスピ海ヨーグルトなども活用している		便秘に対する知識や改善方法など色々工夫していき、薬に頼らない排泄を心がけていきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	月1回歯科往診を受け指導は受けており、意識はしている。しかし、口腔の汚れがある人や自分で出来ない人が中心になっていしまい、出来る人への口腔ケアの声掛けが疎かになってしまう	○	一人ひとりの口腔ケアの習慣をつけていきたい
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事を記録しその人の栄養状態を確認している。又、食べにくい物などは、圧力鍋や刻んだり食べやすいように支援している。しかし、体重が増えてしまったりする人もいます		今後状態が低下していく中で、一人ひとりの食事をしっかりと支援していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の時期には、マニュアル等確認し対策している		研修会など参加し、個々が感染症に対しての意識を高めていくようにする
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生に十分注意して衛生管理をおこなっている。買物は毎日行き、生鮮食品等はなるべく新鮮な物を提供している。又、毎日夕食後、布巾等キッチンハイターで消毒している		衛生管理には今後も十分注意していく
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花が植わっている庭があったり、玄関にベンチや花を植えたりと明るい雰囲気作りに努めているが、まだまだ親しみやすい雰囲気は作れていない	○	玄関の明るさや色使いなどが人が気軽に寄ってこられるような場所を作っていきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、定期的に生け花を交換している。又、リビングも花を飾るなど入居者が季節感を感じ、生活しやすい空間を作っている		入居者の生活にあった空間作りを考えていきたい。又、季節感を感じてもらえるように飾りや掲示をしていく
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パーティションをおき、目隠しになる部分を作ったり、気の合う人と和室などで過ごせる工夫をしている。その中で、気のあった人たちが過ごせる時間を作っている	○	コタツのスペースがまだまだ活かされていないので、整理整頓して使いやすいようにしていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら鏡台や仏壇などなじみ のものを持って来ている。	○	居室の空間は、まだまだ完成はしていないので、 自分が過ごしやすい空間を造るために、必要な物 を本人、家族と相談しながら整えていきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	暖房などの温度調整は小まめにおこなっており、 換気なども定期的実施している。居室のエア コンは自動調整し、一定の温度を保っている		温度調整、換気、掃除は継続して実施していく
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	お風呂場、廊下等至るところに手すりがあり、危 険のないようなつくりをしている。しかし、ほと んどがバリアフリーになっている為に、自立とい う部分が低下するのは防ぎきれない部分がある		機能低下を防ぐように、生活空間を考えていく
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	出来る事・出来ない事を見極め、支援している。 しかし、職員が手を出したり、混乱させる言葉で 声をかけて、行動を停めてしまう時がある	○	出来ることを活かせる環境を考え、状態の変化な どがあるので、その人の見極めは常に観察してい かなくてはならない
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	どこからでも、外へ行ける様になっている。又、 花壇などを利用して、季節の野菜など植えられ るようにしている。しかし、花壇や外回りの整備は 十分とは言えない		花壇やベランダ等入居者の方と一緒に整備し、気 持ちよく外でお茶が飲めるようにしたい

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所として、本人の思いを少しでも実現できるように入居者の生活を常に考えています。理念を作り、時々ビデオを撮影し自分達が作った理念とずれが生じていないかを検証して常に利用している方の立場を考えている。認知症になり記憶が途切れてしまう部分に関しては、カレンダーを手作りで作ったり、行事や何かの目標までカウントするカレンダーを作ったりしている。又、外出する機会を設けたり、本人の趣味を活かした畑作りや同一法人の事業所に仕事に行ったり、職員として雇って欲しいという入居者に関しては給与を払い(家族の協力)ユニット内で台所仕事などで働いてもらうなど、本人の希望や生きるための力をいかに活かして暮らしてもらうかを常に考えて、実行している。又、内部研修や外部研修に行く機会を設けて、職員自身が学べる機会を作ったり、認知症ケア専門士の受験料を法人が負担し、質の向上に向けて努力している。まだ不十分な点は、あるが根拠のあるケアを実現する為に日々努力をしている

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 すずらん日向

(ユニット名) 日向Ⅱ

記入者(管理者)
氏名 橋本好博

評価完了日 19年 4月 25日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の中で理念を作成、掲示しその人らしい暮らしを実現するよう努めている		地域で暮らすという事をもう一度職員と一緒に考えていく
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念はもちろんだが、ユニット毎の理念を職員同士がBS法などを用いて作成し、実現に向けて取り組んでいる		事務所に掲示し、理念の確認をおこなう。又、ビデオを撮影し、日常のケアを理念に照らし合わせて検証していきたい(1度実施済み)
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会を作り、家族との意見交換や面会時に話をする。又、地域とは運営推進会議を利用し、認知症についての理解を深めてもらっている	○	近所の方がもっと認知症の事、グループホームの事などを理解してもらえようように、啓蒙活動をしていく
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開所して、3年目を迎え、地域の方との気軽に挨拶や会話が出来るようになった。又、畑作りなどの相談をする事が出来る		一緒に畑をしたり、近所の家に遊びに行ったりできる様な関係を作りたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加できるように情報を町内会長さんや近所の方々から頂き、参加している。又、夏祭り等事業所でおこなう行事なども案内を送っている	○	定期的な交流会を実施してみたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を利用し、西川地区の状況など把握しているが、認知症についての啓蒙活動など具体的な行動が地域の中ではできていない	○	地区単位で認知症についての勉強会を開催し、認知症についての理解や予防、早期発見に繋がられるきっかけ作りをしていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、各ユニットのリーダーが中心となり、ユニット毎の自己評価を実施して、自分達のケアのあり方を振り返っている		新人職員などに対して、自己評価・外部評価の意義について伝達していく
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の項目を報告し、疑問、質問、意見などを聞きながら、サービスの向上に努めているが、限られた時間の中なので詳しく項目の説明が出来ない		外部評価の項目をもっと細分化して、取り組みやグループホームの様子を説明していきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の事務局を中心に、認知症についての講演会など独自に実施している。又、色々な意見交換もおこなっている		地域での認知症ネットワークを立ち上げる（この業ネット）
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が、認知症介護指導者養成研修で学んできた事を職員に提示はしているが、勉強会や研修会は開催していない	○	地域権利擁護や成年後見制度について、研修会や内部研修などで学ぶ機会を設けていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、認知症介護指導者養成研修で学んできた情報を伝達はしているが、細かい部分の所までの説明はまだ不十分かもしれない	○	市・県などでおこなわれる研修会に積極的に参加する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の説明や理念など説明し、申込・契約をしている。又、契約終了する際は、本人の事を最優先し、家族と相談しながら決めている		丁寧な解りやすい説明を心がけて行きたい
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員と家族がコミュニケーションをとり、苦情に対しては、管理者を中心に解決するように心がけている。家族とゆっくり話す機会を作れて居ない(面会時のみとなっている)	○	まだまだ、不十分な事や気付かない点もあるので、家族会の代表幹事などに協力を頂き、家族の意見などを出しやすい環境にしていきたい
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1ヶ月日記と出納帳の原本を送付し、本人の状態を連絡している。又、不定期(2ヶ月~3ヶ月に1回)ではあるが家族向け新聞に生活の様子を伝えている	○	定期的(2ヶ月)に新聞の発行をしていきたい
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部への苦情処理対策はもうけていない。法人の理事長へ連絡する体制は整えている		苦情や意見が言いやすい雰囲気と家族会などを定期的に設けて交流を図っていききたい
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が実施したい事など、要望や意見など聞き生活している人たちが暮らしやすくなるように考えている。しかし、環境の整備などは、運営者・管理者が中心になってしまう		定期的な面接を組織化し、職員の意見を聞く機会を設ける
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出等前もって決まっている事に対しては、勤務表など調整し対応している。又、急な予定などに対しては極力対応できるように相談調整している		本人の思いを実現する為に職員の勤務調整、人員の配置をこれからもしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職、異動などの時は、新しい職員と入居者がなじみの関係を築くために職員同士がフォローしておこなっている。管理者の変更はない		異動はケアの質を上げていくうえでも必要な事と考えているので、入居者への影響を最小限に食い止め不安や混乱がない様にしていきたい
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会等の研修を中心にその人の段階にあった研修へ参加している。又、内部研修も定期的に行い自分達に必要な研修会を開催しているが、スーパービジョンのような形まではまだおこなっていない	○	個人の成長を計画的に研修計画に乗せていきたい
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の研修などで情報交換をおこなっている。しかし、横の連携という点では、全職員がネットワーク作りをしているとはいえない		事業の枠を超えた認知症地域ネットワークを設立して、地域で認知症の方が住みやすい場所を作っていきたい。又、特養との交換研修を実施していきたい
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休みの確保は確実におこなっている。記録の時間の確保など工夫はしているが、勤務時間通りにはいかず、負担はかけており具体的な対策は取れていない		書類等の整理を行い、勤務時間内に終了できるようにし、職員の負担を軽減していく
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	成長できる環境づくりを心がけている。資格取得など常に目標を設定しておこなっている。経験3年以上の職員に対しては、認知症ケア専門士の資格取得への援助もしている		個々の目標設定をしっかりと設定する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の出来る事・出来ない事をしっかりと見極め、その人の生活を支援していくように心がけている。そして、入居者の方に色々教わりながら生活をしている	常に一緒にその人との目標見失わないようにし、理念を常に心がけておこなうようにしていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の人が協力できる事など家族会等で相談し、古いタオルなど持って来てもらい、入居者の方に雑巾を縫ってもらったりしており、一緒に考えながら関係作りに勤めている		遠方の家族もいるので、負担とならないような形で協力できる体制を作っていきたい。又、年間の計画なども早めに配れるように準備する
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が面会に来たり、家族と入居者が外出して昔の家と一緒に食事をしたりと今までの関係を継続している	○	今後重度化していく中で、受け入れられるように家族向けへの勉強会を実施していきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	なるべく面会に来てもらったり、こちらから出かけて、なじみの人に会える努力をしている		継続した支援をしていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の方同士が相談や話ができるように、見守りをしているが、時々職員が誘導的になって、入居者の方同士が何か行うときに間に入ってしまう事がある		入居者の方が過ごす空間に、職員の支援の方法を研修会などを通して勉強する機会を設けていく
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	命日の日などには連絡をして会いに行ったりしている		関係の継続性を努めて行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、その人らしい暮らしの視点を見失わないようにアセスメントをしている	新しい情報や色々な視点からの情報を取り入れて実施していきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を記入して頂き、事前把握をするように努めている。又、家族からの情報を取り入れて実施しているが、まだまだ知らない部分が多い	○ 家族、関係者等から少しずつ情報を集めていくようにする
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録、排泄状況など記録をする事によって、その人の変化を見逃さないようにしている	心の変化やその人の出来ることを見つけをしていき、その人の出来る力を見逃さないようにしていく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用し、本人の望む視点で計画を考えている。しかし、家族とは相談するも家族の意見としての記録がのこっていない	○ 現状をしっかりと相談し、記録として残し、今の家族の気持ちをしっかりと踏まえて本人の暮らしやすい計画をたてていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院、特変があった場合はすぐに計画を見直している。	○ 本人・家族・担当者・管理者など時間が取れる時は集まって計画の相談をして行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は本人の出来る事や今日の気持ちなど記入する欄があり、1日の変化を記入している		記録を毎月ごと集計して行き、その人の変化や身体的機能の低下等見つけ、その都度アセスメントに利用していきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援 (小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議から、ボランティアなどの支援もしてもらえるようになった。しかし、教育機関等まだまだグループホームの理解などの啓蒙活動など具体的な行動が地域の中ではできていない	○	消防は、避難訓練等でお世話になっており、今後も協力体制を維持する。又、文化機関などにはこちらから出向いて行き、理解を深めてもらう
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	自己負担が発生するという事で、他のサービスを利用するという事は行っていない		どのような形で、サービスを利用していけばよいか検討して行きたい
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での関わりのみになっている	○	認知症になっても暮らせる街づくりのために、連携しながら動いて行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の先生方に気軽に相談でき、休日などにも連絡しても助言などいただけるようになっている。又、往診体制も出来ている		今の関係を保ちながら、看取りについても相談、協力していく体制を築いていく
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の先生や心療内科の先生と相談できる。又、認知症介護研究・研修仙台センターの先生とも相談できるようになった		認知症について、今後も相談していける体制を継続していく
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院の時期など担当医師などと協力しながら行っている。受診や往診などでも対応可能な時は、早期退院できる体制を整えている又、面会にも頻繁に行くように職員が心がけ、状態の把握に努めている		必要な治療は、早期に開始し、事業所に対応できる状況になったら、今後も早期に退院し、身体機能の低下、精神的不安定を最小限に食い止めて行きたい
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、家族の希望を確認しているが記載事項はない。又、終末期に関して、医療の部分に関しては主治医・協力医院の先生に説明してもらい、家族と相談しながら最期の場所を確認している		終末期に関しては段階に応じて、説明と確認をしていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医療機関と相談し、事業所の出来る事・出来ない事を家族に伝え、本人・家族の望む生活を実現するようにしている		段階に応じて、協力者医療機関・家族等しっかりと話をしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者と相談し、住み替えが行われるときは暮らしが継続できるように支援している		最期まで、グループホームで生活できるように体制を整えて行きたい
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いに気をつけ、常に選択してもらう優しい声掛けになるように工夫している。 ケースなど棚にしまったりしているが、鍵はかからない。声掛けになれなれしさが出てきている。		言葉遣いの見直し。個人情報などの記録物に関しては、鍵のある戸棚を準備してしまっていきたい
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定してもらえるような声掛けの工夫をしている。しかし、職員の思いに入居者の行動を乗せてしまう時がある		自己選択できるように、本人と相談しながらおこなっていきたい
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく一人一人の表情などを見過ごさず大切にしている。出来るだけ入居者の希望に沿った対応をしているが、職員のペースで動いてしまっていることがある		職員の都合ではなく、入居者のペースに合わせていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている (認知症対応型共同生活介護)	カットは入居者の方の希望にあわせ、理美容院の利用を支援し、カラー・パーマなどは好みの色を自分で選んで頂いたり、長時間美容室に居れない時は職員が染める時もある		その人のおしゃれを支援できるように継続して関わっていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者との献立作り、調理、後片付けを行う環境作りをしているが、上記の全てにおいて工夫が無くなってきている。		得意な料理を作ってもらおう。食べやすいように工夫していきたい。自信を取り戻してもらえようような関わりを作りたい。一人一人に合った調理法の工夫を考えていきたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコなど喫煙できる環境を作っている。飲み物等自己決定してもらっている。自分の好きなものを自分で買ってきてもらっている。	○	居室での自由な飲食が出来る環境作りをしたい。入居者の嗜好を踏まえつつ身体を考えた工夫をしていきたい。自分でお金をつかい自分で買い物に行く機会を増やしたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用している。入居者の行動や表情を見てのトイレ誘導をしている。判りやすい声掛けを行っている。	○	自主的にいけるように声掛け、対応を考えたい。失敗時の心理的な部分のフォローを適切にしたい。判りやすい声掛けをする。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を伺いながら、毎日でも入浴できる環境を作っている。しかし、浴槽が一つのため、職員の都合で入浴を勧めていることがある。		入浴しやすい環境作りと工夫。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人で不安な時和室で、夜勤者と一緒に過ごしたり、室内の温度調整、日中の過ごし方の工夫している。又、眠れない時の工夫（水分摂取、落ち着いた声掛け）		買い物、散歩などの声掛けをしていく。安眠できる方法を学んでいきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	過去の経験を把握し、畑や裁縫、料理などその人の役割をいかそうとしているが、まだまだ全員に対して生活歴を踏まえた暮らしを支援しきれていない		その人の過去の生活から、今の暮らしが少しでも豊かになるようにしっかりと考えて行きたい


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している (認知症対応型共同生活介護)	自己管理できる方は金銭管理を行っている。掃除などの給料としてお金をわたしている。入居者からの購入希望があった際に預かっている財布より買い物をしている。お金を持つてはいるも確認や意識させる機会が作れていない。		お金を無くしてしまう方への対応を考える。自分のお金としての、使用してもらう機会を増やしたい。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している (認知症対応型共同生活介護)	買い物や散歩をして、外出の機会などを多く設けたり、畑仕事などに行く支援をしているが、入居者や職員の状況などにより、支援できない時もある。		外へ出たいと思うような環境作り。馴染みの場所へ外出する。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している (認知症対応型共同生活介護)	自宅への一時帰宅など家族と連絡をとり行っている入居者と話をし、お墓参りなど里帰りをしている。行事として、小旅行、季節ごとの外出をおこなっている。一部の職員のみ対応となっているところがある。	○	家族も含めての旅行。個人で遠いところへ行ける様に計画を立てたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている (認知症対応型共同生活介護)	電話は、自由に使えるようにしている。希望があった時は、電話をかけるようにしている。葉書での交流は、出来ていない	○	手紙などもっと出したい。年賀状、家族への招待状などかく機会をつくる。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している (認知症対応型共同生活介護)	友人や知人が気軽に来れるようにしている。面会時にお茶などを本人に出してもらったり、昼食なども一緒に食べたりする。		ゆっくり話せる場所を確保して行きたい
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修会などを通して理解をしている	○	身体拘束について、職員同士常に勉強して行き、その人の尊厳ある暮らしをしっかりと支援して行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵などかけず自由に自分の家だと思って生活してもらっている		見守りなど常に、その人の気持ちの変化や何処にいるかをしっかりと把握して生活を支援して行きたい
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人を尊重しながら、安全に配慮している。時には、その人のプライバシーの前に安全を守ってしまう事がある(夜間のトイレ時に少しドアを開けてトイレ介助をおこなってしまうときもある)		安全を守るという事をもう一度考えて行きたい
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意、必要を見分け入居者が使いたいものは置くようにしている。		入居者1人1人にたいして、危険度を調べていく。見守りを重視していく。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の安全を守るように心がけている。又、インシデントレポートも記入して、毎月集計を取っている		インシデントレポートを利用していく。行方不明の際の対応を考え、地域との関係を深める
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置の勉強会には参加しているが定期的ではない。マニュアルはあるが、実際に緊急時の場面になると不安のほうが多いと職員の意見はある		定期的な訓練・勉強会を行う。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施し職員はある程度行っていける。和室に避難用の道具が用意してある。夜間に対しての避難訓練が、まだまだ不十分である	○	避難訓練を行っていく(特に夜間)そして地域の方々の協力を得られるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	体調の変化があった時は身体状況を含めて、家族と話し合っている。		インシデントレポートをまとめているので、その統計なども家族のほうに伝え、リスクを共有して行きたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	表情の変化などを早急に発見できるよう、変化があったときは、バイタル測定し受診・往診などおこなっている		現状をしっかりと把握していき、協力医院の先生や家族との連携を保っていききたい
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋などをもらってきて職員が必ず確認している。又、医師からの指示があった時はケース記録に記入している		薬の副作用などしっかりと確認して、適切な薬を内服していけるようにこれからも支援していく
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取や体操、散歩など適度な運動をおこなう。又、カスピ海ヨーグルトなども活用している		便秘に対する知識や改善方法など色々工夫していき、薬に頼らない排泄を心がけていきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	月1回歯科往診を受け指導は受けており、意識はしている。しかし、口腔の汚れがある人や自分で出来ない人が中心になっていしまい、出来る人への口腔ケアの声掛けが疎かになってしまう		全員を対象とした口腔ケアを実践し、習慣できるようにする
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事を記録しその人の栄養状態を確認している。食べにくい物などは、圧力鍋や刻んだり食べやすいように支援している		今後状態が低下していく中で、一人ひとりの食事をしっかりと支援していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがい・調理の際の手の消毒を行う。インフルエンザの予防接種を行う。又、マニュアルはあるが、実際研修という形での勉強会は設けていない	○	勉強不足のため、研修など勉強会をひらきたい。外出より戻ってきた際は手洗い・うがいを行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗浄器による消毒・不均等の消毒を毎日行っている。又、生鮮食品については毎日の買い物によって新鮮な食材を用いている。		調理の際の手の消毒を行う。暑い時期に向けての保存方法を考えたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花が植わっている庭があったり、玄関にベンチや花を植えたりと明るい雰囲気作りに努めているが、まだまだ親しみやすい雰囲気は作れていない		玄関の明るさや色使いなどが気軽に寄ってこれるような場所を作っていきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、定期的に生け花を交換している。又、リビングは入居者が生活しやすい空間を作っている。トイレなども解りやすいように、縁を赤いテープで囲ったり工夫はしている	○	入居者の生活にあった空間作りを考えていきたい。常に変化はするので、変化に応じた工夫や過ごし安場所を考えていきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パーティションをおき、目隠しになる部分を作ったり、気の合う人と和室などで過ごせる工夫をしている。その中で、気のあった人たちが過ごせる時間を作っている	○	畳のスペースが活かされてきたので、スペースの使い方を考えていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人、家族と相談しながらなじみのものを持って来ている。又、自宅復帰を希望としている人(入居者自身)もあり、その方の居室は殺風景となってしまう</p>	<p>○</p>	<p>居室の空間は、まだまだ完成はしていないので、必要な物を本人、家族と相談しながら整えていきたい</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>暖房などの温度調整は小まめにおこなっており、換気なども定期的に実施している。居室のエアコンは自動調整し、一定の温度を保っている</p>		<p>換気、掃除は継続して実施していく</p>
<p>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>お風呂場、廊下等至るところに手すりがあり、危険のないようなつくりをしている。しかし、ほとんどがバリアフリーになっている為に、自立という部分が低下するのは防ぎきれない部分がある</p>	<p>○</p>	<p>機能低下を防ぐように、生活空間を考えていく</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>表示やメニューなども工夫し、至るところに目をつけられるようにして、記憶をつなぎ止めておく支援をしている。又、出来る事・出来ない事を見極めて支援している</p>		<p>状態の変化などがあるので、その人の見極めは常に観察していかななくてはならない</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>花壇などを利用して、季節の野菜など植えられるようにしている。又、何処からでも外へ行けるようにしている</p>		<p>ベンチや椅子をもっと配置したい</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない <input type="radio"/> ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所として、本人の思いを少しでも実現できるように入居者の生活を常に考えています。理念を作り、時々ビデオを撮影し自分達が作った理念とずれが生じていないかを検証して常に利用している方の立場を考えている。認知症になり記憶が途切れてしまう部分に関しては、カレンダーを手作りで作ったり、行事や何かの目標までカウントするカレンダーを作ったりしている。又、外出する機会を設けたり、本人の趣味を活かした畑作りや同一法人の事業所に仕事に行ったり、職員として雇って欲しいという入居者に関しては給与を払い(家族の協力)ユニット内で台所仕事などで働いてもらうなど、本人の希望や生きるための力をいかに活かして暮らしてもらうかを常に考えて、実行している。又、内部研修や外部研修に行く機会を設けて、職員自身が学べる機会を作ったり、認知症ケア専門士の受験料を法人が負担し、質の向上に向けて努力している。まだ不十分な点は、あるが根拠のあるケアを実現する為に日々努力をしている